

登録コード	E8009400	開講年度	2026			
授業科目	書道特別演習				担当教員	小林 比出代
英文授業名	Special Calligraphy Seminar				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学生
講義室	教育M402講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	○篆刻・刻字に関する専門的知識・技能を習得し、書道教育にかかわる活動を遂行する上で根幹となる専門知及び技法を深め、授業実践に活用できるようになる。 ○小・中学校の国語科「書写」および高等学校の芸術科「書道」の授業を担当できる能力を養う。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	高等学校芸術科書道において求められる専門的な知識技能として、篆刻・刻字に関する理解を深め、様々な書表現を味わう。 ※担当教員が高等学校芸術科書道教諭の実務経験を活かして書道理論と実技に関する講義を行います					
(5)授業計画	第1回：篆書の歴史と特徴 第2回：篆刻とは 第3回：印稿作り（一作目：白文） 第4回：一作目布字 第5回：一作目刻印 第6回：一作目補刀、押印 第7回：印稿作り（二作目：朱文） 第8回：二作目布字 第9回：二作目刻印 第10回：二作目補刀、押印 第11回：刻字とは 第12回：書稿作り 第13回：刻字 第14回：着色／鑑賞 授業アンケート 定期試験 なし					
(6)成績評価の方法	・提出された全課題の内容を、篆刻・刻字に関する専門的知識・技能が習熟できているか総合的に測り（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）と併せて評価する。具体的には、篆刻・刻字に関する理解度は各自の課題作品によって、実技の習得度及び授業に取り組む姿勢は定期的な提出物によって判断する。個々人の達成度も考慮する。					
(7)成績評価の基準	・提出された全課題において篆刻・刻字に関する専門的知識・技能が習熟できた割合が9割以上を「卓越している」、8割以上9割未満を「かなり上にある」、7割以上8割未満を「やや上にある」、6割以上7割未満を「水準にある」とし、併せて出席率及び授業に取り組む姿勢を加味する。 秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	【事前学習】 ・次回授業までに行ってくる課題を出すことがある。当該授業で扱う内容となる。真摯に取り組んでほしい。 【事後学習】 ・各授業時間内では習得しきれなかったと考える学習内容については、次の授業までに各自補習しておく。					
(9)履修上の注意	・書道用具（大筆・小筆・墨・半紙・硯・下敷・文鎮・鉛筆）を各自で用意すること。 ・印材他篆刻に関する用材用具に関しては授業時に説明する。 ・座席は指定する。					

(10)質問，相談への対応及び連絡先	原則としては授業時に直接の形が望ましい。個人的な相談や質問等はメール、もしくはオフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合はその他の時間でもよい。 メールアドレス：hideyokb@shinshu-u.ac.jp 研究室電話番号：内線4073 研究室：M413
【教科書】	・授業時に指示する。 ・必要に応じてプリント資料を配布する。
【参考文献】	・篆刻字典 ・篆書印譜大字典